

# 令和5年度～令和7年度の校内研究のまとめ

## 1 学校課題（R5時点）

本校は軽度知的障がいのある生徒の一般就労を目指し、地域と連携して学校教育を進めている高等部だけの特別支援学校です。本校には高等学校籍と特別支援学校籍の職員がおり、特別支援教育としての生徒の個性やニーズに応じた個別対応を重視する者と、高校教育としての一定の水準や専門性を求める者として、指導方法に対する考え方にずれが生じている場合があります。さらに、教育目標やカリキュラムの設定、授業方法や評価基準などにおいて、職員間での共通認識が不十分であるという課題もありました。

また、校訓である「自立・共生・自己実現」に基づいて、生徒が将来的に社会で活躍できるような力を身につけることを目指していますが、学年ごとに担当教員が異なり、教科指導や学年行事、実習などの活動も学年単位で行われることが多く、各教科や各学年ではそれぞれに工夫した取組が行われているものの、横断的な視点や系統的なつながりが不足していました。他教科との連携や情報共有が十分ではなく、重複が生じているケースも見られたため、統合的な計画や実施方法を検討する必要性がありました。

## 2 研究テーマの設定

上記の課題に対応するために、研究課題を「カリキュラム・マネジメント」とし、3年間で実践的な成果を出せるように取組を行いました。学校教育の流れに沿って、学校目標（校訓）と授業を『つなぐ』ことに重点を置き、順に整理しました。

研究1年目（R5）： 求める資質・能力	系統的・横断的な教育活動の整頓
研究2年目（R6）： 授業内容の検討	学習評価の充実
研究3年目（R7）： SPノート・授業実践	外部資源の整頓と活用

※本校版キャリアパスポート

### カリキュラム・マネジメント3つの側面（文科省）

- 各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた教科横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していくこと。
- 教育内容の質の向上に向けて、子供たちの姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立すること。
- 教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせること。

### <学校教育の流れ>

- ▭ R5年度
- ▭ R6年度
- ▭ R7年度

